

取組別評価シート(平成30年度実績)

政策5	安全・安心に暮らせるまちを目指します
取組1	地震災害に強いまちづくりの推進
取組の目的	大規模地震による「人命被害ゼロ」を目指し、市民や地域、企業、行政が一体となって災害に強いまちづくりを推進します。
現状と課題	◎静岡県第4次地震被害想定を踏まえ、平成26年3月に人命被害ゼロを目標として策定した「袋井市地震・津波対策アクションプログラム2013」に基づき、令和4年度までの地震・津波対策の具体的な計画目標を定め、防災・減災対策を計画的に進めている。 ◎近年、地震や大雨などによる自然災害が毎年のように各地で発生しており、昨年の大阪府北部地震、西日本豪雨は甚大な被害をもたらし、本年においても6月、山形県沖を震源地として、震度6強を記録する地震が発生した。 ◎命山や津波避難タワー、防潮堤などのハード事業を着実に進めてきた。増加している外国人住民も含めて日頃からの災害への備えと防災訓練への参加などを通じて、より一層地域の防災力を高めていく必要がある。

1. 取組指標の実績値

※[]内の矢印は指標を「上げる」「下げる」を示します

番号	指標名	項目	H26 (基準値)	H28	H29	H30	R1	R2 (目標値)	H30 達成率
1	住宅の耐震化率[↑] (%)※(兼)政策指標	目標値	—	92.6	93.2	93.8	94.4	95.0	100.0%
		実績値	91.3	92.6	93.3	93.9			
2	防災訓練の参加者人数割合(12月訓練実施時)[↑] (%)	目標値	—	72.6	74.4	76.2	78.1	80.0	89.1%
		実績値	69.0	67.7	67.7	67.9			
3	防潮堤整備延長(市施工分)[↑] (km)	目標値	—	1.62	3.12	(新) 4.10 (旧) 3.52	(新) 4.20 (旧) 3.68	(新) 4.30 (旧) 3.84	96.3%
		実績値	0.04	1.17	3.50	3.95			
4	「メローねっと」の登録率(防災情報)[↑](%)	目標値	—	23.6	30.2	36.8	43.4	50.0	44.6%
		実績値	10.4	14.3	15.1	16.4			
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

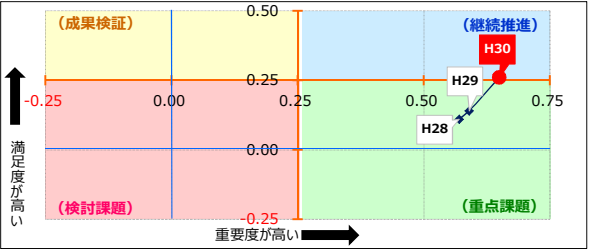
2. 県内他市との比較

番号	指標名						
1							
2							

3. 市民意識調査結果及びその分布

(政策5・取組1 重要度と満足度の評価マトリクス)

区分	H28	H29	H30	R1	R2
重要度	0.57	0.59	0.65		
満足度	0.11	0.14	0.26		



4. この取組実現のための主な事業

事業名	担当課	総事業費(千円)			R2年度に 重点化する 事業
		H30年度 実績値	R1年度 予算値	R2年度 予算の方向性	
基本方針(1)一般住宅の地震対策					
木造住宅耐震補強助成事業	都市計画課	18,200	18,050	維持	
ブロック塀等耐震改修促進事業	都市計画課	12,468	10,660	維持	
既存建築物耐震性向上事業	都市計画課	6,213	8,150	拡充	◎
家庭内減災対策推進事業【5-4-(2)再掲】	危機管理課	5,013	2,004	維持	
基本方針(2)地域防災力の強化					
自主(連合)防災隊育成事業	危機管理課	21,044	17,438	維持	
水防運営事業	危機管理課	2,943	2,995	維持	
防災訓練事業	危機管理課	723	1,092	維持	
基本方針(3)津波被害軽減の推進					
静岡モデル(袋井市)防潮堤整備事業【3-4-(5)再掲】	建設課	177,442	50,000	縮小	
津波避難対策事業	危機管理課	6,971	7,155	維持	
基本方針(4)原子力災害への対策					
地域防災計画等推進事業	危機管理課	859	1,756	拡充	◎
基本方針(5)防災拠点施設の強化					
袋井消防庁舎・袋井市防災センター整備事業【5-4-(2)再掲】	危機管理課	237,898	741,954	皆減	
消防施設管理事業(消火栓・耐震性防火水槽)	危機管理課	32,392	42,484	維持	
災害対策用資機材等整備事業【5-1-(6)再掲】	危機管理課	13,961	17,008	維持	
基本方針(6)医療救護体制の強化					
災害対策用資機材等整備事業【5-1-(5)再掲】	危機管理課	13,961	17,008	維持	
救護所運営事業	健康づくり課	4,376	3,641	維持	
5. 総合評価					
I. 評価の分析	◎住宅の耐震化率については、啓発に加え、補助制度の実施などにより、木造住宅の耐震補強や家庭内家具への転倒防止器具取付など、各家庭での実施率が高まった。 ◎防災訓練への参加者人数割合は増加しているが、コミュニティの希薄化や勤務形態の多様化などにより目標達成には至っていない。 ◎防潮堤の整備については、豊沢開発の発生土を活用するなど目標以上の整備を進めたため、年度の目標値を上方修正した。引き続き、整備を進める。 ◎「メローねっと」の登録率は、地域防災対策会議や出前講座、班内回覧、校長会など様々な機会において、パンフレットの配布と説明を行い、着実に増加しているものの、目標値との乖離が続いており、更なる推進と新たな方策研究が必要である。 ◎市民意識調査の結果については、重要度及び満足度のいずれも上昇した。			H 30 の 評 価	B (概ね順調)
II. 30年度に取り組んだ内容	◎住宅耐震化の推進に向け、県費補助拡充分15万円を上乗せ補助(一般世帯75万円[県45万円、市30万円]、高齢者等世帯95万円[県55万円、市40万円])し、耐震化の促進に取り組んだ。 ◎防災訓練への参加者増加に向け、防災訓練説明会において安否確認の重要性と地域における平時からの良好な関係構築について理解を深めた。 ◎防潮堤の早期完成に向け、豊沢工業団地開発の発生土を活用しながら3.95km分を整備した。 ◎メローねっとの登録者増加に向け、防災隊長会議や地域防災対策会議、出前講座、班内回覧、校長会など様々な機会において、パンフレットの配布と説明などを随時実施した。				
III. 今後の展開方向	◎各家庭への防災減災対策については、災害発生の際に住宅への被害を軽減するため、引き続き、木造住宅耐震補強助成や家具等転倒防止などを行っていく。 ◎防災訓練については、外国人など、より多くの地域住民が参加するよう、呼びかけを行っていく。 ◎防潮堤については、早期完成に向けて引き続き計画的に整備を進めていく。 ◎メローねっとについては、市民が防災・災害に関する情報を容易かつ迅速に入手できる有益なツールであるため、様々な機会を通じて有用性を周知し、登録を呼びかけていく。				

取組別評価シート(平成30年度実績)

政策5	安全・安心に暮らせるまちを目指します
取組3	交通安全・防犯対策の推進
取組の目的	地域、学校、警察などの関係団体と連携し、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。

現状と課題	◎高齢ドライバーによるアクセルとブレーキの踏み間違い等による交通事故が全国各地で多発する中、本市は、交通事故の全体件数は減少しているものの、高齢ドライバーによる事故の割合は増加しており、その対策が必要である。 ◎犯罪認知件数は、袋井警察署の開署以来、平成27年からは、ほぼ横ばいで推移しているが、特殊詐欺の件数は増加していることから、高齢者をはじめ市民が被害に遭わないよう犯罪対策の周知が必要である。 ◎空き家については、本市でも増加傾向にあり、行政・地域が一体となった対策が必要である。
-------	--

1. 取組指標の実績値

※[]内の矢印は指標を「上げる」「下げる」を示します

番号	指標名	項目	H26 (基準値)	H28	H29	H30	R1	R2 (目標値)	H30 達成率
1	子ども・高齢者の交通事故件数[↓](件)	目標値	—	(新) 239 (旧) 100	(新) 236 (旧) 99	(新) 230 (旧) 98	(新) 228 (旧) 97	(新) 227 (旧) 96	83.9%
		実績値	101	285	282	267			
2	人身事故件数[↓] (件)※(兼)政策指標	目標値	—	(新) 700 (旧) 770	(新) 700 (旧) 760	(新) 700 (旧) 750	(新) 700 (旧) 740	(新) 700 (旧) 730	100.0%
		実績値	775	720	749	649			
3	免許証返納者数[↑] (人)	目標値	—	176	186	(新) 318 (旧) 196	(新) 297 (旧) 206	(新) 297 (旧) 216	93.4%
		実績値	156	196	286	297			
4	不審者情報件数[↓] (件)	目標値	—	32	27	22	17	12	54.5%
		実績値	41	33	27	32			
5	刑法犯認知件数[↓] (件)	目標値	—	624	(新) 570 (旧) 618	(新) 565 (旧) 612	(新) 560 (旧) 606	(新) 555 (旧) 600	100.0%
		実績値	639	573	467	499			
		目標値							
		実績値							

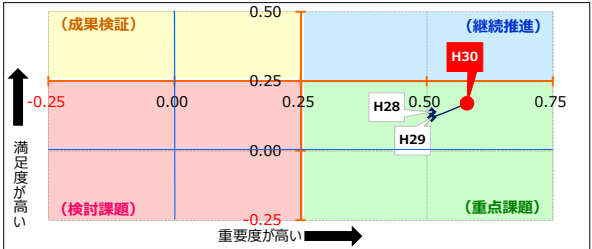
2. 県内他市との比較

番号	指標名	袋井市	磐田市	掛川市	藤枝市	裾野市	県
1	刑法犯認知件数(人口千人当たり)(件) 県警「市区町別に見た平成30年の犯罪」	5.8	5.5	3.9	3.7	4.7	5.4
2	交通事故発生件数(人口10万人当たり) (件)県警「平成30年版交通年鑑」	749.2	838.4	724.8	766.7	602.9	777.1
3							

3. 市民意識調査結果及びその分布

(政策5・取組3 重要度と満足度の評価マトリクス)

区分	H28	H29	H30	R1	R2
重要度	0.51	0.51	0.58		
満足度	0.14	0.12	0.17		



4. この取組実現のための主な事業

事業名	担当課	総事業費(千円)			R2年度に 重点化する 事業
		H30年度 実績値	R1年度 予算値	R2年度 予算の方向性	

基本方針(1)子どもを交通事故から守る取組の推進

交通安全施設整備事業【再掲5-3-(2)(3)】	協働まちづくり課	20,585	20,000	維持	
交通安全対策推進事業【再掲2-2-(3)、5-3-(2)(3)】	協働まちづくり課	7,570	7,452	維持	

基本方針(2)高齢者の事故防止の推進

交通安全施設整備事業【再掲5-3-(1)(3)】	協働まちづくり課	20,585	20,000	維持	
交通安全対策推進事業【再掲2-2-(3)、5-3-(1)(3)】	協働まちづくり課	7,570	7,452	拡充	◎

基本方針(3)交通安全対策の推進と自転車等の運転マナーの向上

交通安全施設整備事業【再掲5-3-(1)】	協働まちづくり課	20,585	20,000	維持	
交通安全対策推進事業【再掲2-2-(3)、5-3-(1)(2)】	協働まちづくり課	7,570	7,452	維持	

基本方針(4)地域における防犯活動の支援

防犯灯設置事業	協働まちづくり課	10,682	12,300	維持	
防犯対策推進事業【再掲2-2-(3)】	協働まちづくり課	896	623	維持	

基本方針(5)空き家・空き地対策の推進

空き家対策事業	都市計画課	402	487	拡充	◎

5. 総合評価

I. 評価の分析	◎平成30年の交通事故発生件数は、子ども・高齢者の交通事故発生件数や人身事故の発生件数のいずれも昨年度から減少したが、子ども・高齢者の交通事故発生件数については、目標達成には至らなかった。 ◎高齢ドライバーの運転による交通事故は社会問題となっており、免許証の返納を行う高齢者は増加しているものの、引き続き高齢ドライバーに起因した悲惨な事故が発生していることから、免許返納に加え、新たな対策が求められる。 ◎不審者情報件数については、メロネットと配信や防犯パロールの強化、防犯教室等の開催、教育委員会による子どもたちへの防犯教育により、市民の防犯意識が高まり不審者情報が随時寄せられ、増加に繋がったものと推察される。 ◎刑法認知件数については、防犯教室開催や防犯グッズ配布、青色回転灯パロールなどの取組が影響して減少となり、県平均より低い値となった。 ◎市民意識調査の結果については、満足度及び重要度のいずれも上昇した。	H 30 の 評 価	B (概ね順調)
II. 30年度に取り組んだ内容	◎小学生と幼稚園児に対し、交通安全教室の開催や、グッズの配布など交通事故防止の啓発を行った。 ◎65歳以上の高齢者が運転免許証を自主返納する際の、「運転履歴証明書」の交付手数料の一部助成を開始した。 ◎メロネットでの不審者情報の発信や、同報無線を通じた特殊詐欺防止の啓発を行い、市民に対する注意喚起を行った。 ◎空き家対策については、「袋井市空き家等対策協議会」を設立し、「袋井市空き家等対策計画」を策定して空き家等の適正な管理等に向けての方針を定めたほか、「(仮称)ふくろいすまいの相談センター」の設置など、今後に向けた具体的対策の検討を進めた。		
III. 今後の展開方向	◎高齢者の交通事故を防止するため、交通安全キャンペーンや、県交通安全協会の交通指導員による高齢者交通安全教室を開催するとともに、高齢運転者の運転免許自主返納を促進するほか、国や県に対して急発進防止器具取付に対する助成制度の創設を要望していく。 ◎袋井警察署や袋井市防犯推進協会などとの連携により、引き続き犯罪を未然に防ぐため、教室開催や防犯パロールの実施など、市民の防犯意識を高めていく。 ◎「(仮称)ふくろいすまいの相談センター」を開設し、空き家対策協議会と連携を図りながら、空き家等所有者などの相談に対応するとともに、司法書士会等との協定を締結し、官民が連携した相談体制を整備する。また、空き家の改築や除却等に対する補助制度を創設し、運用を開始する。 ◎空き家の管理状況や所有者を各自治会と連携して調査し、実態把握を進める。		

取組別評価シート(平成30年度実績)

政策5	安全・安心に暮らせるまちを目指します
取組4	消防・救急救命体制の充実
取組の目的	市民一人ひとりの防火・防災意識が高く、迅速な災害対応が図れる安心して暮らせるまちづくりを推進します。
現状と課題	◎消防救急については、平成24年度から中東遠5消防本部での通信指令業務の共同運用を開始し、円滑な運用を図っている。また、地域防災の新たな拠点となる袋井消防庁舎・袋井市防災センターについては、令和2年4月の開署に向けた整備を進めている。 ◎大規模災害発生時に、自ら命を守るよう、自主防災隊や地域住民に対し、初期消火や応急手当など自助力向上のための知識・技術向上の習得促進を図る必要がある。 ◎各地域の防災を担う消防団員については、少子化の進行やライフスタイルの多様化などにより、団員の継続した確保が困難となっている状況である。

1. 取組指標の実績値

※[]内の矢印は指標を「上げる」「下げる」を示します

番号	指標名	項目	H26 (基準値)	H28	H29	H30	R1	R2 (目標値)	H30 達成率
1	出火率(人口1万人あたり火災件数) [↓](件)	目標値	—	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	100.0%
		実績値	3.0	2.6	5.5	2.3			
2	単身高齢者世帯(80歳以上)への 住宅防火訪問実施率[↑] (%)	目標値	—	9.5	10.0	10.5	11.0	11.5	74.3%
		実績値	8.5	8.4	8.8	7.8			
3	消防水利(消火栓・防火水槽)の 設置数[↑] (箇所)	目標値	—	1,862	1,868	1,874	1,881	1,888	99.7%
		実績値	1,850	1,862	1,866	1,869			
4	普通救命講習受講者数[↑] (人)	目標値	—	7,808	(新) 8,050 (旧) 8,356	(新) 8,300 (旧) 8,904	(新) 8,550 (旧) 9,452	(新) 8,800 (旧) 10,000	94.4%
		実績値	6,712	7,247	7,547	7,837			
5	消防団員数の充足率[↑] (%)	目標値	—	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	88.6%
		実績値	95.8 (H27)	90.0	90.3	88.6			
		目標値							
		実績値							

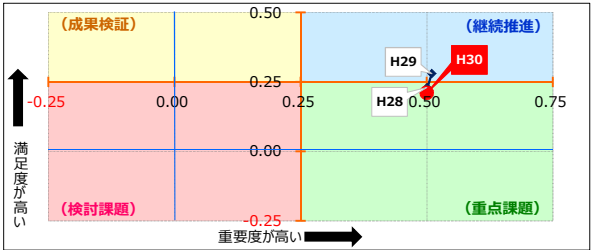
2. 県内他市との比較

番号	指標名	袋井市	磐田市	掛川市	藤枝市	裾野市	県
1	火災出火件数(人口10万人当たり)(件) 県「平成29年版火災統計と消防の現況」	23.9	35.8	39.0	20.5	32.4	25.8
2	消防団団員数(人口千人当たり)(人) 県「平成29年版火災統計と消防の現況」	6.8	6.9	6.7	4.0	4.5	4.8

3. 市民意識調査結果及びその分布

(政策5・取組4 重要度と満足度の評価マトリクス)

区分	H28	H29	H30	R1	R2
重要度	0.50	0.51	0.50		
満足度	0.23	0.28	0.21		



4. この取組実現のための主な事業

事業名	担当課	総事業費(千円)			R2年度に 重点化する 事業
		H30年度 実績値	R1年度 予算値	R2年度 予算の方向性	
袋井消防庁舎・袋井市防災センター整備事業【5-1-(5)再掲】	危機管理課	237,898	741,954	皆減	
袋井消防庁舎・袋井市防災センター整備事業	消防本部総務課	614,077	1,679,744	縮小	

基本方針(1)消防力の強化

袋井消防庁舎・袋井市防災センター整備事業【5-1-(5)再掲】	危機管理課	237,898	741,954	皆減	
袋井消防庁舎・袋井市防災センター整備事業	消防本部総務課	614,077	1,679,744	縮小	

基本方針(2)火災予防の推進

家庭内減災対策推進事業【5-1-(1)再掲】	危機管理課	5,013	2,004	維持	

基本方針(3)救急救命体制の強化

普通救命講習受講促進事業	袋井消防署	0	0	維持	
応急手当普及促進事業	袋井消防署	0	0	維持	

基本方針(4)消防団活動の支援

消防団運営事業	危機管理課	103,213	109,365	維持	
消防団施設維持管理事業(車庫)	危機管理課	33,223	12,957	維持	
消防団備品購入事業(車両機械)	危機管理課	21,741	0	維持	

5. 総合評価

I. 評価の分析	◎出火件数については、車輛巡回等で警戒強化したことにより、昨年度に比べ全体では28件の減の20件となり、中でも放火が疑われる出火は18件減の1件となった。 ◎単身高齢者世帯への住宅防火訪問実施率については、防火訪問対象外となる世帯の増加があったことから目標達成に至らなかった。 ◎消防水利の設置数については、防火水槽や消火栓といった消防水利を計画的に設置しており、ハード面での防災力強化が着実に進んでいる。 ◎普通救命講習の受講者数は、目標値には到達していないものの、企業や自治会などからの参加者が増加している。 ◎消防団団員数は、確保に努めているものの、ライフスタイルの多様化などの理由から年々減少傾向にあり、目標から乖離している状況である。ただし、近隣の磐田市や掛川市も同様の状況で、類似団体や県平均と比べると高い値を維持している。 ◎市民意識調査の結果については、満足度は高い水準を維持している。	H 30 の 評 価	B (概ね順調)
II. 30年度に取り組んだ内容	◎平成29年度火災件数が増加したことにより、日中や夜間の車輛巡回等を強化したほか、同報無線やメロ〜ねっと、ホームページ等で注意喚起を行った。 ◎消防水利の充足に向けて、防火水槽2基、消火栓1基を新たに設置した。 ◎消防団員については、各分団において、自治会等の協力を得ながら勧誘活動を行った。		
III. 今後の展開方向	◎令和2年4月に袋井消防庁舎及び袋井市防災センターが開所することから、新たな地域防災の拠点として、防災と消防の連携による迅速かつ効率的な体制を構築し、防災・消防の機能強化を図る。 ◎単身高齢者防火訪問の実施率向上のため、施設入所や家族同居等を事前に確認し、未実施数を確実に削減し実施率向上に繋げるよう事業を進める。 ◎中学生を対象とした普通救命講習を広く実施するなど、受講者の幅を広げ、受講者数の拡大に努めていく。 ◎引き続き、自治会等の協力を得ながら、消防団員の勧誘活動を粘り強く行うとともに、団員の負担軽減を図り、消防団活動に対する地域住民の理解度を高めるなど、地域を守る消防団員の確保に努めていく。		

政策5	安全・安心に暮らせるまちを目指します
取組5	安全な水の安定供給
取組の目的	水道施設の計画的な更新と適正な管理を行い、安全でおいしい水道水を安定的に供給します。
現状と課題	<p>◎高度成長期に整備した水道施設の更新や、近年発生している地震災害等を踏まえた耐震化等、安全な水道水を安定的に供給するため、中長期的な視点から収支バランスを図った健全な経営を進める必要がある。また、アセットマネジメントを実施し、今後30年間の施設の耐震化や更新を図るための費用が明確化されたものの、その財源確保が課題である。</p> <p>◎事業所や家庭において節水意識が高まっているとともに、節水器具等が普及していることに加え、人口減少社会の到来により、今後有収水量の減少が見込まれることから、安定した料金収入の確保が課題となっている。</p>

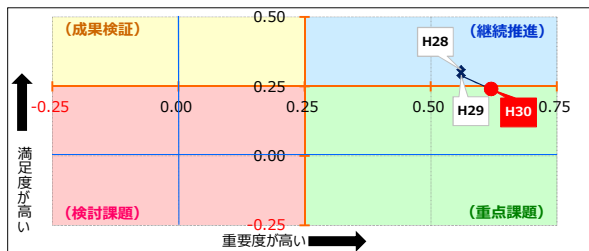
※〔 〕内の矢印は指標を「上げる」「下げる」を示します

番号	指標名	項目	H26 (基準値)	H28	H29	H30	R1	R2 (目標値)	H30 達成率
1	水道の基幹管路耐震適合率[↑] (%)	目標値	—	41.5	42.8	44.0	45.7	47.2	100.0%
		実績値	39.6	42.1	44.0	46.4			
2	水道事業の営業収支比率[↑] (%)	目標値	—	106.1	107.1	108.1	109.0	110.0	96.5%
		実績値	102.7	105.6	104.2	104.3			
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

番号	指標名	袋井市	磐田市	掛川市	藤枝市	裾野市	県
1	基幹管路の耐震適合率(%) 県「静岡県の水道の現況(平成28年度)」	44.0	69.4	44.2	50.3	64.7	39.1
2	基幹管路の法定耐用年数超過(経年劣)率(%) 県「平成29年度静岡県の水道の現況」	5.4	1.9	8.5	11.3	9.6	19.1
3	平成29年度水道事業の経常収支比率(%) 県「経営比較分析表(平成29年度)」から算出	111.7	106.5	110.9	130.6	140.5	—

(政策5・取組5 重要度と満足度の評価マトリクス)

区分	H28	H29	H30	R1	R2
重要度	0.56	0.56	0.62		
満足度	0.31	0.29	0.24		

[illegible]